



# 学校だより

互いの違いを認め合う

令和4年度 4号

元気なあいさつ

令和4年10月31日

役に立つ

横浜市立いずみ野中学校

横浜市泉区和泉町 6201 電話 045-804-6540

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/izumino/>

校長 窪田 智明

今回の学校だよりから学校だよりの表題の横のコメントを、皆さんに大切にしてもらいたい3本柱（互いの違いを認め合う・元気なあいさつ・役に立つ）に変えました。2か月に1回ぐらいは見ることとなりますので、ぜひ頑張って身に付けてください。

11月には人権週間があります。今回は、皆さんと一緒に「人権」について考えてみたいと思います。近年、「SDGs」と同じくらい「LGBTQ」という言葉を目にします。「Lはレズビアン（女性同性愛者）」、「Gはゲイ（男性同性愛者）」、「Bはバイセクシャル（両性愛者）」、「Tはトランスジェンダー（性別違和）」、「Qはジェンダークエスチョニング・クィア（性的指向・性自認が定まらない人）」です。これにはどんな意味があり、どのように理解すればよいのでしょうか。性について考えるときには、生物学的な性（からだの性別）、自分自身の性についての自覚（こころの性）、男と女のどちら好きになるか（好きになる性）、という3つの視点から考えてみる必要があるのです。次の例を比べて考えてみましょう。体が男で、心は男、好きになる性が女の場合（または、体は女、心は女、好きになる性は男）は、世の中では多数を占めています。これを多数派「マジョリティ」と言います。しかし、世の中には次に示す例もあります。例えば、体が男で、心は女、好きになる性が男の場合もありますが、他にも様々な可能性が存在します。これを少数派「マイノリティー」と言います。実際は境目がはっきりせず、グラデーションのようになっています。多種多様です。

大切なことは、数が多いと正しく、数が少ないと間違っているのではないということです。人の違いを理解することは多いか少ないかで決めるものではありません。色々な場合が自然にあり得ることを知っておく（勉強しておく）必要があります。自分とは違う人たちがいて、色々なタイプを理解し合うこと（互いの違いを認め合うこと）が大切なことだと思います。

## 【学校保健委員会】9月9日（金）12:30～14:30 B棟1階

テーマ： 地域の防災について知ろう

講師： いずみ野中学校地域防災拠点運営委員長 森田 清さん

地域の方・泉区役所総務課の方

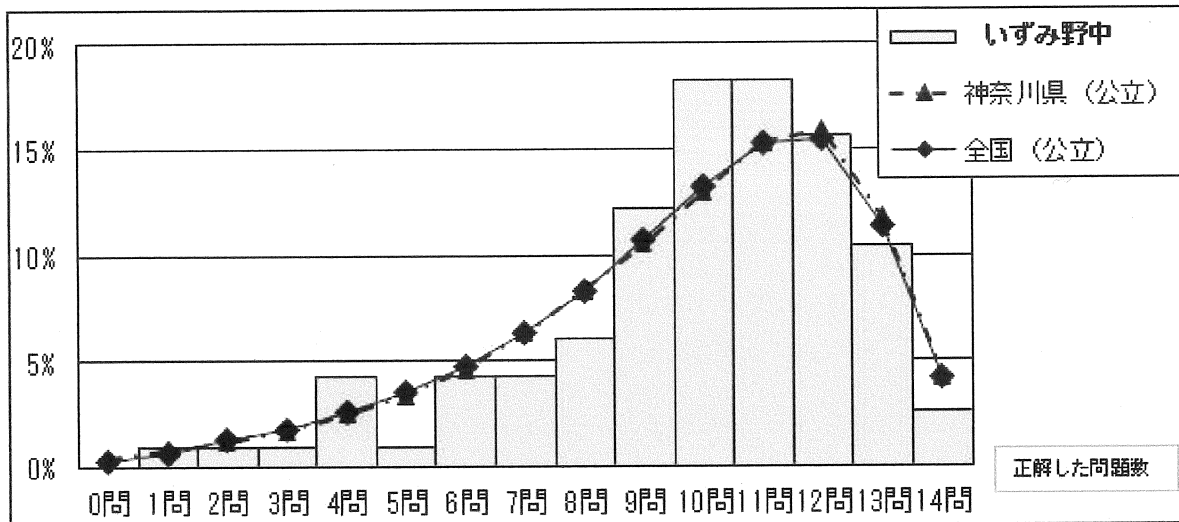
生徒保健委員とPTA事業研修委員より5名の保護者の方、教職員が参加しました。いずみ野中学校B棟は災害が起きたとき、地域の防災拠点になります。防災備蓄庫には様々な物品が備蓄されています。段ボールベッドやトイレの使い方を教えていただいたり、シートを敷いた床に毛布を掛けて寝てみたり、実際の体験もしました。災害を、いつかではなく身近なこととして実感し、中学生の自分にできることは何だろうと、考える機会になりました。



## 【全国学状結果】

国 語	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
いずみ野中学校	115	9.9 / 14	70	10.0	2.7
神奈川県 (公立)	61,393	9.7 / 14	69	10.0	2.9
全国 (公立)	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9

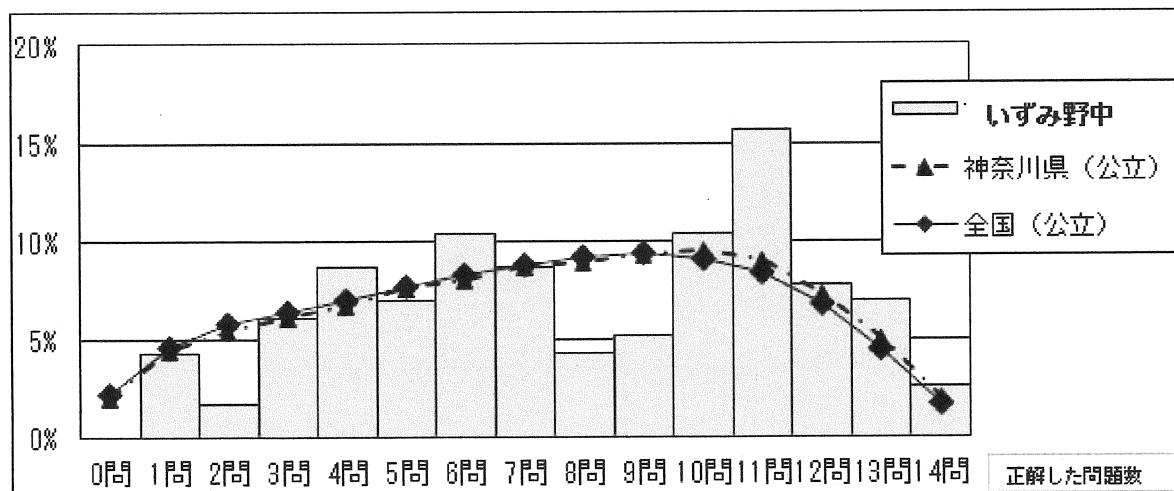
各正解数の人数の割合



内容別に見るとスピーチ、意見文の問題と心情読み取りの問題の正答率が高い。1年次から話し合い活動、スピーチ、ディベートに取り組んできた成果が表れていると感じる。また読書に親しむ生徒も多く、このことが心情読み取りに大きく影響していると考えられる。一方漢字の書き取りでの正答率は低く、日常生活で的確な漢字を使って文章を書くという経験を増やすことを心がけたい。

数 学	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
いずみ野中学校	115	8.0 / 14	57	8.0	3.6
神奈川県 (公立)	61,393	7.4 / 14	53	8.0	3.6
全国 (公立)	891,913	7.2 / 14	51.4	7.0	3.6

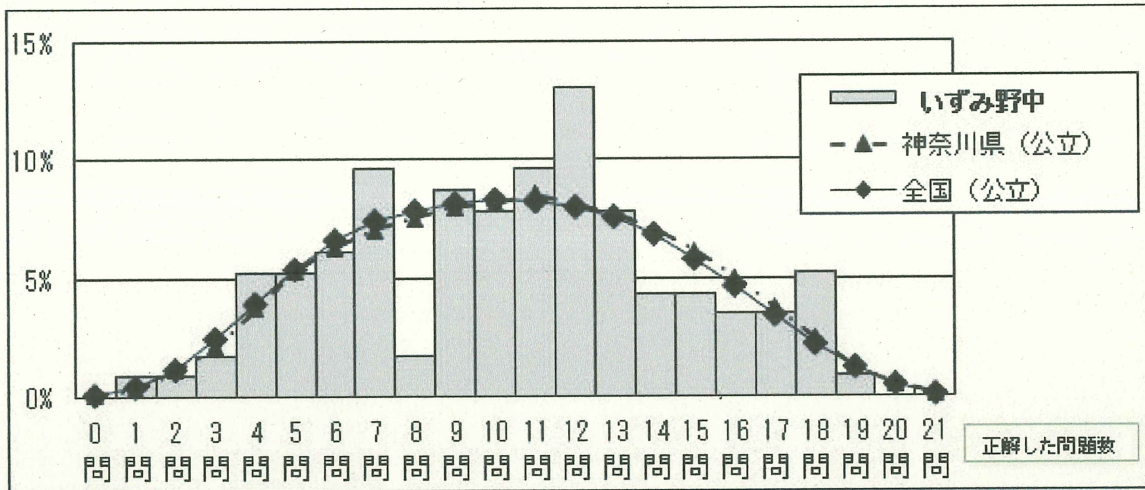
各正解数の人数の割合



各計算、問数の特徴、図形の証明の基本などの定着が見られる。今までの授業に対する熱心な姿勢が反映されているように思える。思考判断の分野は、自分の考えを適切に表現することと、データの特徴を読み取り、その傾向を推測する力がさらに必要と思われる。

理 科	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
いずみ野中学校	115	10.4 / 21	50	11.0	4.1
神奈川県 (公立)	61,439	10.5 / 21	50	11.0	4.1
全国 (公立)	892,585	10.4 / 21	49.3	10.0	4.1

各正解数の人数の割合



今回の調査は、問題解決・科学的な探求を通して、自ら考え解決していくことにより重点が置かれています。自分から問題を発見し、実験・観察等で考察する力をつけていく必要があります。そうなる課題を授業者が設定していく必要があります。

### 【体育祭】 9月22日 (木) AM グランド

天気にも恵まれ、学校運営協議会の皆様や多くの保護者の方々にもご参観いただき、大いに盛り上がった体育祭を実施することができました。生徒の楽しそうな顔と仲間への熱い応援と大きな拍手がとても印象的でした。やはり、生徒にとって行事は、成長と思い出に絶対不可欠なものだと実感しました。



## 【人権作文コンテスト】

2年生全員が取り組み、校内最優秀として学校代表に選ばれた2年2組の高橋美羽さんの人権作文をご紹介します。

「堂々と言える世の中に」

2年2組 高橋 美羽

皆さんは、東日本大震災を覚えていますか。2011年3月11日におこった、最大震度マグニチュード9.0のとても大きな地震です。そして、その地震で福島第一原子力発電所事故がおきました。この事故により、今もなおいじめられたり、いたずらされたり、出身地を隠さなければならない人達があります。

震災の被害を受け、その地に住めなくなった人は、仮設住宅で暮らしたり他県に引越したりしました。引越しをした人は、全ての人とは限りませんが、新しい仕事を探し、学生は転校して別の学校へ通いました。ですが、仕事には就けず学校ではいじめられてしまいました。その理由は、「福島県出身だから」でした。実際に横浜市でもいじめを受けて不登校になってしまった人がいました。

この話を聞いたとき、私は「なぜこんなことをするのだろう」と思いました。たしかに福島で事故は起き放射線はあふれました。ですが、「人間が放射線を浴びても、他の人間にうつることはありません。だから差別をすることはない。むしろ、福島の人達は被害者なのに。」と思ったからです。最初は有害だと報じられていたかもしれませんが、でも、少し経った後には無害だと報じられたはずです。人間は一度思ったことをすぐに変えることは難しいです。差別している人は、自分や大切な人を守りたいがためにしていることだというのはわかります。ですが、福島の人達も命を守るために、生きるために避難してきているのです。みんなしていることは「守る行動」。していることは同じなのに、なぜ福島の人達だけこういった差別を受けなければならないのでしょうか。誰かが傷ついているときこそ、助け合いが必要なのではないのでしょうか。

このようなことを防ぐには、ニュースや新聞などで今の震災の状況や、差別を受けている人がいること、放射線に対しての正しい情報のことなどを報じるべきだと思います。そうすれば、誰か一人でも考えを改めてくれるかもしれないし、引き続き福島復興のために被害者の人達を支援したり、募金をしたりするボランティア活動をしてくれるかもしれません。また、人権について考えるきっかけを作るのも大切だと思います。

私は今まで、人権についてあまり考えたことがなかったし、差別されている人がいるということをニュースで軽く知っただけでした。ですが、今回の人権作文コンテストによって調べる機会ができて沢山のことを知り、人権について深く考えることが出来ました。なので、そういったきっかけが必要だと思います。私は、せめて震災のことを知っておこうと思います。そうしたら、少しは震災の被害を受けた人達の気持ちがわかると思うからです。被害を受けた人達の気持ちを理解して、もし、身近に福島の人がいいたら、自分は差別せずに普通に接して、差別している人がいたら「放射線の害はない。」ということを伝え、偏見をなくしていつか差別を少しでも減らしていきたいです。

## 【個別支援学級 市合同体育祭】

10月12日(水)に三ツ沢公園陸上競技場にて、市の個別支援学級の合同体育祭が行われました。

いつ雨が降りだすか心配しながらの天候でしたが、最後まで実施することができ、生徒たちは大いに練習の成果を発揮し充実した結果となりました。個人種目も最後の混合リレーも素晴らしい活躍でした。

混合リレー 2位、100m走 1位 高橋翔吾

